

炭 竈 ふく代 議員



庁舎、白鳥保育所、弥富駅の今後の整備計画は

問

市の主要施策の今後の方向性を聞く。

- (1) 小中学校施設整備や修繕等の今後の取り組み
- (2) 庁舎改築等検討委員会【以下「委員会」】で、新庁舎建設、改修等の検討が進められているが、今後の計画は。



現庁舎は耐震性が低く、築後44年が経過し老朽化等が著しい。この問題を協議する委員会で、区長会長等公職者と公募委員2人の計10人で組織している。第1回は22年8月に開催。耐震化工事は①今後の耐用年数的に費用対効果が低い②室内補強で使い勝手が悪化③等の問題からやめ、新築すべきと方向付けされた。第2回は12月に開催。合併推進債（財政状況により国の支援が受けられる借金）が活用できる28年度までの完成、床面積1万㎡を想定した上で、①移転新築は、調整区域は法改正により建設できず、市街化区域の大部分は、床面積3千㎡以下の制限があるので見送る②十四山支所改築は、人口分布上、市の中心から遠い③等の理由から、現在地に新庁舎建設を決定した。

28年度までに新庁舎完成を目指す

答 教育長

- (1) 22年9月に全学校の耐震改修率が100%になった。なお、千人を超える大規模校の桜小学校分離校として、（仮称）第二桜小学校の建設【】も23年度から着手していく予定である。

- (3) 白鳥保育所（以下「白鳥」）は老朽化が進み、保護者や地域住民から建て替える要望を多く聞いている。いつごろの建て替えを計画しているのか【】関連記事15面】。
- (4) JR・名鉄弥富駅の駅舎橋上化、自由通路と、同駅西側の踏切整備の今後の取り組みを聞く。

答 市長

- (2) 委員会で、現在の場所を改築し、約1万㎡の新庁舎を建設する方向付けがされた。財源等を解決し、合併推進債の活用を予定している。



桜小学校マンモス化対策となる新校で、25年度当初開校を目指し、旧弥富中学校跡地（平島町地内）に整備を予定している。

また24年度から中学校で武道が必修になる。現在武道場のない十四山中学校は整備が必要となる。



- 進債の利用期限である28年度までに、新庁舎完成に取り組みたいという考え方を持っている。
- (3) 白鳥は昭和42年開所で築43年が過ぎ、老朽化も進んでいる。建て替えは、25年度開校で準備に取り掛かる（仮称）第二桜小学校の後に、取り組む計画をしていきたい。財政状況をかながみ、少しでも早くできるような努力するが、一つの目安として考えてほしい。

保育所の内容は、児童館、児童クラブ等併設型の多目的施設にしていきたい。

- (4) 22年度、ほぼ策定できた「弥富駅周辺基本構想」の原案に基づき、鉄道関係者、県公安委員会と協議を進めていきたい。

今後、3月議会でも基本構想案を示し、23年度から専属職員を配置し取り組んでいきたい。